8 GSM(Genitourinary Syndrome of Menopause)
～閉経関連尿路生殖器症候群～
患者の舌診に関する検討　2

女性医療クリニックLUNA　ネクストステージ
女性医療クリニックLUNA 横浜元町

関口　由紀、中村　綾子、槍沢 ゆかり、藤崎　章子
金子　容子、永井　美江、中村　仁美

（はじめに）2014年から提唱されている概念が、Genitourinary Syndrome of Menopause（GSM・閉経関連尿路生殖器症候群）である。閉経に伴う外陰・膣の萎縮変化およびそれに伴う不快な身体症状で、中年以上の半数以上の女性が影響されているとされる。GSM症状としては、膣乾燥感・性交時の潤い不足・性交時不快感・膣と外陰のムズムズ/灼熱感/掻痒・頻尿・尿意切迫感・再発性膀胱炎等がある。外陰部の所見としては、尿道口の円形化、膣前庭部の乾燥、小陰唇の短縮などが認められる。治療は、性ホルモンの局所投与やレーザー治療である。昨年今学会で、ＧＳＭ患者の舌は、乾燥舌である場合が多いことを報告した。

今回さらに同じ患者群の、腎虚に関連のある目の症状の有無に関して症状を聴取した。

（方法）2019年に女性医療クリニックＬＵＮＡネクストステージで、GSM治療をおこない女性患者でさらに舌診を行った２０名（５５歳～８０歳）に関して、2021年に目の症状の有無を聴取した。

（結果）何等かの目の症状がある患者は、19例であった。症状は、複数回答で①視力低下　15例、②目の乾燥　17例、③アレルギー性結膜炎5例であった。

（結果）ＧＳＭ患者は、乾燥舌で、なんらかの目の症状を訴えている可能性が多いと考えられた。

（考察）フェムゾーン（膣と外陰）の症状に加え、乾燥舌と目の症状がさらにあった場合は、外陰部のケアに加えて補腎剤の投与が有効であると考えられる。